

ARCHIVES  
OF  
MODERN JAPANESE MUSIC  
LECTURE CONCERT SERIES

日本近代音楽館レクチャー コンサート シリーズ

II

三善晃へのオマージュ

● 三善 晃

オマージュ IV  
フルート、ヴァイオリンとピアノ (1973)

オマージュ  
フルート、ヴァイオリンとピアノ (1979改訂)

オマージュ・アン・クリスタル  
(ガラスのオマージュ)  
フルート、ヴァイオリンとピアノ (1979)

シェーズ  
ピアノのための前奏曲 (1973) より抜粋

鏡 ヴァイオリン独奏 (1981)

随風吹動 フルードとピアノのための (1999)

レクチャーと対話

石島正博 / 中川俊郎

演奏

中川俊郎 — ピアノ

遠藤剛史 — フルード

坂口昌優 — ヴァイオリン

2014年  
3/22 (土) 14:30開演 [開場 14:00]  
明治学院大学白金キャンパス  
アートホール

入場無料 要予約 【3月3日(月)から受付開始】

予約受付 東京コンサーツ  
Tel: 03-3226-9755 (平日10:00~18:00)  
Fax: 03-3226-9882

主催 明治学院大学図書館付属日本近代音楽館  
制作協力 東京コンサーツ



ARCHIVES  
OF  
MODERN JAPANESE MUSIC  
LECTURE CONCERT SERIES  
日本近代音楽館レクチャー コンサート シリーズ

II

三善晃へのオマージュ

このレクチャーコンサートは、昨年逝去した作曲家・三善晃の室内楽作品を記譜法の変遷と確立という視点から検討し、演奏と対話を通じてその創意と作曲方法を明らかにしようとするものです。

《ヴァイオリンとピアノのためのソナタ》(1954) 第2楽章アンダンテに刻印された濃厚なロマンティズムは、1973年に作曲された《シェーズ》《ノクチュルヌ》に、実験的な記譜法とともに定着しました。

レクチャーでは、三善の高弟、中川俊郎氏と共に作品を検証します。まず、《オマージュIV》(1973)と5年後の《オマージュ》改訂版を比較して具体的な作曲のプロセスを辿り、次に、《シェーズ》を例として、独自の記譜法とそのコンセプトについて解説します。さらに、より実験的かつ個性的な《オマージュ・アン・クリスタル(ガラスのオマージュ)》(1979)の創意と作曲技法について考えたいと思います。

最後に、三善の古典的形質を明確に表す《鏡》(1981)と、大乘教典の華嚴経に発想を得て作曲した《随風吹動》(1999)を聴きます。

石島正博

\*明治学院大学日本近代音楽館記念文庫「三善晃資料」は、2011年、ご本人から寄贈を受けて設置されました。白紙譲渡をはじめとする作品資料を収めています。今回の講演、演奏は、この資料に基づいて制作されます。

2014年  
3/22 (土) 14:30開演 [開場 14:00]  
明治学院大学白金キャンパス アートホール



明治学院大学 〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

- 品川駅 [JR/京浜東北線]  
高輪口より都営バス「目黒駅前」行「明治学院前」下車  
または 駅より徒歩約17分
- 目黒駅 [JR/東横線/東横線/東横線/都営地下鉄三田線]  
東口より都営バス「大井町駅前」行「明治学院前」下車  
または 駅より徒歩約20分
- 白金台駅 [東京メトロ南北線/都営地下鉄三田線]  
2番出口より徒歩約7分
- 白金高輪駅 [東京メトロ南北線/都営地下鉄三田線]  
1番出口より徒歩約7分
- 高輪台駅 [都営地下鉄浅草線]  
A2番出口より徒歩約7分



石島正博 Masahiro ISHIJIMA [作曲家]

1960年生まれ。桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)、桐朋学園大学卒。在学中、作曲を三善晃、ピアノを金澤希伊子、指揮を尾高忠明の諸氏に師事。79年MUSIC TODAY国際作曲コンクール・ファイナリスト、80年、日本音楽コンクール(管弦楽部門)3位、87-89年フランス滞在。主な作品に《ODE》('84)-ヴァイオリンとオーケストラのために、《WOVEN》('08)-打楽器とピアノのために、《REQUIEM》('11)ピアノソロのために、《弦楽四重奏曲第1番》('13)、バレエ3部作、オペラ「みるなの座敷」など。作品はダラムシュタット国際夏期アカデミー(ドイツ)他、ニューヨーク、パリ、モスクワ、ソウルなどで演奏、上演されている。また、三善晃監修「ラヴェルピアノ作品全集」(全3巻)(全音楽譜出版社)に共著者として加わった。現在、桐朋学園大学教授。



中川俊郎 Toshio NAKAGAWA [ピアノ]

作曲家、ピアニスト。  
1958年東京生まれ。桐朋学園大学作曲科卒業。作曲を三善晃、ピアノを末光勝世、森安暎子各氏に師事。82年MUSIC TODAY国際作曲コンクール第1位。1988年、村松賞受賞。2009年、サントリー芸術財団主催で「作曲家の個展2009、中川俊郎」が開催され、その成果に対して、第28回中島健蔵音楽賞受賞。CM音楽界においても受賞歴多数。  
これまでに歌手の木村弓、邦楽囃子笛方の福原徹、ダンスカンパニー「リバー・タラフマラ」の演出家、小池博史の各氏ともコラボレーションを重ね、また2005年にTrp. 曾我部清典、Bar. 松平敬とともに結成した、「双子座三重奏団」の活動も注目されている。  
現在、日本近代音楽協会副会長、日本作曲家協議会理事。



遠藤剛史 Takashi ENDO [フルード]

桐朋学園卒業、同研究科修了。在学中より演奏家グループ「プレイアード」を組織し、数々の演奏会、リサイタルを行う。また、ソロ活動では、「パッサと日本人」というテーマで、J.S.バッハの作品4曲と邦人委嘱作品9曲(全曲世界初演)というプログラムで、連続演奏会を行う。  
ベルエポックの名器を使い、その時代の曲を集めた、フルードとピアノによるCD「見えない笛」をリリース。全音楽譜出版社より「フルードによる愛の歌曲集」を出版。  
現在、日本フィルハーモニー交響楽団および日本のオーケストラの選抜メンバーである、ジャパン・ヴィルトゥオーソ・シンフォニー・オーケストラにて活動を続けている。  
平成9年度文化庁芸術祭音楽部門大賞受賞。平成11年度文化庁芸術祭音楽部門優秀賞受賞。フェリス学院大学非常勤講師。



坂口昌優 Mayu SAKAGUCHI [ヴァイオリン]

桐朋女子高等学校音楽科を首席で卒業し、同大学、同大学研究科を経て、2008年よりブリュッセル王立音楽院に留学。文化庁新進芸術家海外研修員として研鑽を積む。  
2009年よりPas de Trois (Cl: 綱場千晶、Pf: 廣羽弘晃)を結成し、新曲やあまり知られていない曲の発掘を積極的に行い、パリ、ベルサイユ、ブリュッセル等で度々公演を行う。第14回アルベルト・クルチ国際ヴァイオリンコンクール(ナポリ)第2位を受賞するなど、国内外のコンクールで入賞しており、オーケストラ・アンサンブル金沢、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団などのオーケストラとの共演も多い。  
帰国後は、「アートの中で聴く音楽会「ミルトキクカチ」」(石川県音楽文化振興事業団主催)の企画に携わるなど、積極的に演奏活動を行っている。